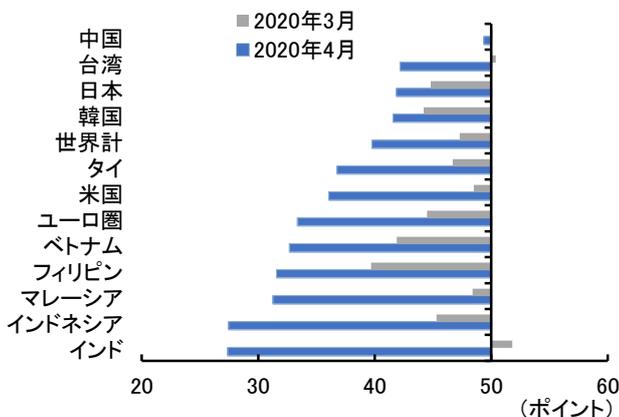


新型コロナ禍でアジア景気悪化が深刻化

— 国内経済活動急停止と輸出急減が金融不安を高める可能性に注意 —

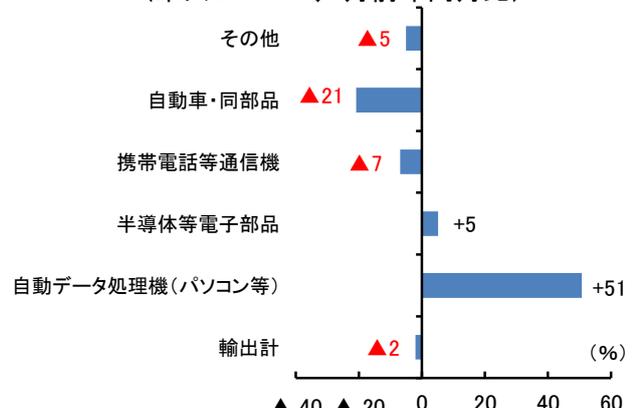
- (1) 内憂外患のアジア経済は景気悪化がこれからさらに深刻化。製造業PMIの低下は韓国・台湾など北東地域よりも南・東南地域で大(図表1)。世界一ともいわれる厳格な都市封鎖を実施したインド、感染拡大が続き外出・工場稼働規制の大幅緩和が難しいインドネシア、フィリピンなどで景気が大きく落ち込む見込み。
- (2) 輸出減もさらなる下押し要因に。テレワーク特需によるパソコン・半導体輸出の増加で、これまでのところアジアからの輸出は堅調(図表2)。しかし、グローバルでの経済活動停止により自動車などの消費財に下振れ圧力。実際、韓国の5月上旬の輸出は前年同期比▲46.3%と急減(図表3)。輸出急減がアジア全域で景気悪化の第2波となる可能性を示唆。
- (3) 景気悪化により金融面でのリスクも台頭。新興国の為替市場では経常収支赤字国を中心に通貨が大きく下落(図表4)。現時点でアジアの金融・通貨市場は不安定化していないものの、経常赤字が続くインド、インドネシア、フィリピンに加え、対外短期債務が外貨準備比で90%を超えるマレーシア、外貨準備の水準が月間輸入4か月分と低いベトナムなど、南・東南アジアを中心に金融面で脆弱。国内経済活動停止の長期化・深刻化や、輸出急減が懸念されるなか、企業倒産が急増し、それが信用不安・資本流出加速といった事態に発展するリスクには注意が必要。

(図表1) 製造業PMI



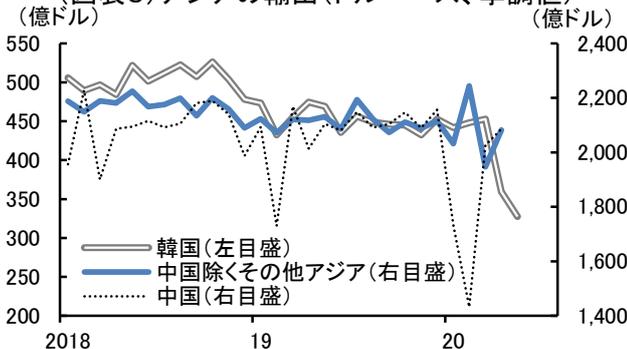
(資料) IHS Markit

(図表2) 中・韓・台の財別輸出の伸び率
(米ドルベース、4月前年同月比)



(資料) 各地域貿易統計を基に日本総研作成

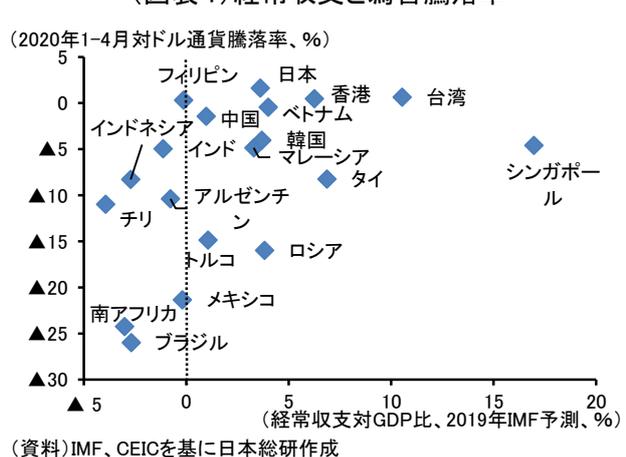
(図表3) アジアの輸出(ドルベース、季調値)



(資料) CEICを基に日本総研作成

(注) その他アジアはインド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、香港、台湾、タイ、ベトナム、日本。韓国の最新値は5月上旬(曜日要因調整)の前年同期比で推計。

(図表4) 経常収支と為替騰落率



(資料) IMF、CEICを基に日本総研作成

【ご照会先】調査部 野木森 稔 (nogimori.minoru@jri.co.jp, 03-6627-0426)